

令和4年5月20日

千里第三小学校区説明会

チャットからの未回答の質問に対する回答及び、公表できていなかったご意見

【ご質問】

Q1：本質的な課題解決を目指す場合、複数の学校を連動させて学区を変更すべき。通学の距離や所要時間、通学における事故リスクが学区変更時の最優先事項だと思う。その観点で、千里第三学区の北東部の学区変更不可の理由が千里第二の生徒数過多であることは理解できない。見解を教えてください。

A1:千里第二小学校への通学区域の見直しを不可としているのは、千里第二小学校自体が、過大規模校となる見込みで、受入れる余地がないためです。「複数の学校を連動させて学区を変更すべき」というご意見につきましても、対象となる学校が増加し、児童や保護者に与える影響が大きくなることから、出来る限りそのような方策は避けるべきであると考えております。

Q2：人気のエリアなので校区が変わることで地価が下がることも予想される。教育委員会ではそのあたりのことはどのように考えているか。

A2:地価が下がることを懸念されているご意見があることは認識しておりますが、教育委員会としては、子供たちのより良い教育環境を作る視点により学校規模の適正化を検討しております。

Q3：たたき台として何故3つの町が選ばれたのか？数字も入った根拠等を示してほしい。

A3:千里第三小学校の隣接校5校のうち、過大規模校となる見込みで受け入れ余地のない2校を除いた3校を受け入れ先の候補校としております。その受け入れ先の校区に近い町丁をたたき台としております。

隣接している学校の児童数推計

該当小学校	項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
千里新田小学校	通常学級数(学級)	25	25	26	26	27	27	27
	全校児童数(人)	834	830	856	863	865	847	817
江坂大池小学校	通常学級数(学級)	14	14	15	15	14	12	12
	全校児童数(人)	446	444	445	426	408	381	367
山手小学校	通常学級数(学級)	16	16	17	18	17	17	17
	全校児童数(人)	532	540	541	535	516	482	470
千里第二小学校	通常学級数(学級)	28	30	31	31	32	32	31
	全校児童数(人)	1,023	1,074	1,068	1,046	1,036	1,029	992
豊津第一小学校	通常学級数(学級)	30	30	29	30	31	33	33
	全校児童数(人)	1,075	1,039	1,014	1,006	1,011	1,056	1,054

令和6年度より、新1年生から段階的に通学区域の見直しを実施した場合の推計は以下のとおりです。

A案 千里山竹園1丁目を千里新田小学校に変更

該当小学校	項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
千里第三小学校	通常学級数(学級)	30	29	31	31	31	30	29
	全校児童数(人)	1,044	1,078	1,078	1,055	1,023	985	930
千里新田小学校	通常学級数(学級)	25	25	26	27	29	30	30
	全校児童数(人)	834	830	856	892	928	951	957

B案 江坂町5丁目を江坂大池小学校に変更

該当小学校	項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
千里第三小学校	通常学級数(学級)	30	29	31	31	31	31	30
	全校児童数(人)	1,044	1,078	1,078	1,066	1,034	1,008	966
江坂大池小学校	通常学級数(学級)	14	14	15	16	16	15	16
	全校児童数(人)	446	444	445	449	461	456	460

C案 円山町を山手小学校に変更

該当小学校	項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
千里第三小学校	通常学級数(学級)	30	29	31	30	30	29	28
	全校児童数(人)	1,044	1,078	1,078	1,047	1,007	959	895
山手小学校	通常学級数(学級)	16	16	17	19	20	21	22
	全校児童数(人)	532	551	566	607	631	647	670

Q4:31学級を上限にする理由がHPや動画から見えない。私が千三に通っていたころは36学級あり、運動場や体育館、雨の日の急な予定変更にも対応していた。特殊学級が増えたとはいえ、理解ができないので説明してほしい。

A4: 1つの特別教室等の使用可能数が、仮に月曜日から金曜日まで1日6時間授業の場合、1週間あたり30コマとなるため、31学級以上の過大規模校では、1つのクラスの特別教室の使用が週1回もままならず、また、運動場や体育館も複数学級で利用することになるなど、総合的な学習や適切な教育のスムーズな推進に支障をきたすことから、学校規模適正化基本方針において31学級以上を過大規模校としております。

また、31学級以上を過大規模校とするなど学校規模の分類については、令和3年7月14日付で、吹田市立学校規模等検討委員会より答申をいただいております。

Q5:説明会を順次開催されると思うが、受け入れる側の校区の方の意見は聞いているか?

A5:影響を受ける可能性のある校区のPTA役員や、地域団体の役員に対して説明会を開催しており、その際の質疑応答においてご意見をいただいております。

Q6:江坂大池小校区は千三小とあまりにも状況が異なるのでそのあたりはどのように考えているか。

A6: 市内のどこの学校においても等しい教育環境の整備を目指しております。それぞれの学校の状況を把握したうえで、対応してまいります。

Q7: 丁寧に住民の話を聞くとの事だが、具体的にどのように住民の意見を聞く方法をとるのかを教えてください。

A7: 教育委員会として解決すべき課題であることから、学校規模適正化の取組につきましては引き続き検討してまいります。毎年の児童数の推計を注視し児童数や学級数の状況、その増減の傾向、過大規模校となる期間、住宅開発の見込みなどの個別事情を考慮した上で、総合的に判断してまいります。その上で、学校規模の適正化に取り組む必要があると判断した場合は、その必要性について十分に理解いただいた上で、その手法につきましては、できる限り児童や保護者の方たちのご意見を説明会等を通して伺いながら丁寧に進めてまいります。

Q8: 段階的な分譲で解決し得るとの説明は理解できない。大規模開発に応じた際の推計・検討過程の一切について公開してほしい。

A8: 大規模開発の協議があった当時（平成 28 年度）の児童数推計の結果は以下の表のとおりです。大規模な住宅開発で、一度に分譲した場合は児童数が急増し、それに伴い教室数も増加することを見込んでおりますが、複数年に分けて段階的に分譲された場合は、教室数の増加を抑制する効果があります。

平成28年度（2016年度）の千里第三小学校の児童数推計

開発状況	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
平成31年度（2019年度）、一気に住宅開発された場合	通常学級数（学級）	26	26	25	25	28	27
	支援学級数（学級）	4	4	4	4	4	4
	合計学級数（学級）	30	30	29	29	32	31
	全校児童数（人）	919	937	927	921	951	938
平成31年度（2019年度）から、数年渡り段階的に住宅開発された場合	通常学級数（学級）	26	26	25	25	25	25
	支援学級数（学級）	4	4	4	4	4	4
	合計学級数（学級）	30	30	29	29	29	29
	全校児童数（人）	919	937	927	921	899	889

Q9: 説明されているような学校増設が不要という判断がされたのであれば、その判断の経緯を開示・説明する義務があると思うので、対応をお願いしたい。

A9: A8 と同回答

Q10：未回答のチャットに関する回答を含むドキュメント化予定、今後のコミュニケーション方法に関する方針を教えてください。

A10：未回答のチャットに関する回答は、吹田市のホームページで公開します。また、説明会であったご質問や、回答及びご意見に関しては、議事概要に掲載しており、こちらも吹田市のホームページで公開いたします。

#### 【ご意見】

- ・千里第三から千里第二に移す選択肢にない理由が分からない。千里第三から千里第二、千里第二から他の校区、他の校区から他の校区など、もっとダイナミックに考えなければ本質的な問題は解消しないと思う。
- ・今回提示された案に賛成の方も少なからずいると思う。例えば、そういった方を事前に集計することで適正化が測れるならやってみるべきだと思う。
- ・千里第三小の増築や教員の増員で対応してほしい。
- ・都市開発の計画を含め、本質的な解決を目指した中長期ビジョンを示してほしい。今回の素案や説明では、その場しのぎの対策にしか見えない。
- ・安全対策について十分に計画した上で素案を出してほしい。通学路を歩いてみたが、危ないポイントが多数ある。それらが一旦棚上げされた状態で議論が進むことには納得できない。
- ・早ければ年末より千三小学校前の土地開発が入るとの説明を業者から受けた。近年の円山町においても大規模土地開発を千三校区内で許可しないような対策はできないのか。現状の住人だけでも納得できないような状況にも拘らず、さらに外部から流入させることは疑問でしかない。
- ・円山町から山手町への通学路だけでなく、江坂町5丁目から大池への通学路（新御堂筋横断）も危険。祝橋の信号は言うに及ばず、地元の間人すらあまり把握していない歩道橋を使わせるのは反対。全く人目がなく、外から見えないため、一人で通学中に不審者に出会っても逃げ場がないので通らせたくない。
- ・千三校区から大池小学校に校区変更するにあたり、新御堂筋を横断する通学路になる。新御堂筋は交通量が多く、横断するにあたり、人身事故のリスクが高まることは間違いないと思う。仮に人身事故が発生した場合、教育委員会はどのように責任取られるのか。新御堂筋を横断してまで登校するのは、あまりにもリスクが高いのではないか。
- ・地域の歴史的な背景も考えてほしい。
- ・適正化は児童生徒の教育条件をより良くする目的で、通勤距離、通学時間、通学路の安全確保を前提にしているとのことだが、小学校は身の安全が守られない通学になり、中学は通学時間が約2倍になり、子供たちに多大なる負担がかかる。
- ・何らかの決断をする際は、事前にその判断基準を示してほしい。危険性を訴えられている方が多いが、危険性が第一なのか、それ以外の要素で決めるのか、危険性が第一とする場合、

何をもって危険度を判断したのか、インフラ整備を含めて何らかの対策を検討したのか、等、意思決定の優先順位、その判断基準、該当要因の解消方法の検討は明確にしてほしい。

・竹園1丁目は歩道がなく、速度超過の車が児童のすぐ脇を通ることが頻繁にある。また、兄弟児への配慮が全く示されていないことに疑問を感じる。同時に通学することを想定している家庭も大変多いはずです。通学時における安全対策と兄弟児への配慮を十分に検討してほしい。